

ひろさき美術館 武家屋敷×アート

平成28年

7月30日(土)～8月12日(金)

会期中無休

旧伊東家×蒔苗正樹

開催場所／公開武家屋敷(弘前市仲町伝統的建造物群保存地区)
開館時間／午前10時～午後4時

旧梅田家×岩井康頼

*8月1日～8月7日／午前9時～午後4時

旧笹森家×坂本憲史

*最終日8月12日／午前10時～午後1時

旧岩田家×塚本悦雄

(日により開館時間が異なりますのでご注意ください)

*入場無料

マレビトの祀り

まつ

マレなること(アート)と マレなる人々(客人) それから
彼の地の マレビト(そこにかつて暮らしていた人々の精霊)と
あそべ おとずれて にぎやかに
あそべ

マレビトの祀りまつひろさき美術館（武家屋敷×アート）

この度、私たち《弘前アートプロジェクト実行委員会》⁽¹⁾は、『ひろさき美術館～武家屋敷×アート～マレビトの祀り』を開催します。この企画は、仲町伝統的建造物群保存地区⁽²⁾を舞台に、4人の作家がそれぞれ4棟の公開武家屋敷において、個展形式で作品を展示するものです。出展する4人は、いずれも弘前に関係の深い作家で、絵画、銅版画、彫刻、インスタレーション、メディアアートなどそれぞれ異なる表現スタイルで制作活動をしています。4棟の武家屋敷×4人の作家、それぞれ特色のある展示をご覧いただけたらと思います。

作家は武家屋敷にとって時空を超えた‘マレビト’といえます。古（いにしえ）の空気漂う武家屋敷に、現代の作家が、現代の感覚でアートを通し関わる。展示会のテーマ“マレビトの祀り”は、「かつての津軽の武士、そこで暮らしていた人々の魂を呼び起こし、たくさんのお客、‘マレビト’を迎えるために作品を祀る」ということを表しています。

歴史的建造物に4人の作家がどう挑むのか。このマレな機会をぜひお楽しみください。

⁽¹⁾ 中心市街地内の空間を活用して、芸術・美術関連の創作活動を行うアーティストの作品展示スペースやアートパフォーマンスの場、これからのアートを育み、考える場の創出を目的に、建築家、アーティスト、まちづくりに関わるメンバーなどで構成された委員会。アーティストと市民・まちをつなぎ、アート力の底上げ、さらなる地域の活性化を図るべく活動している。

⁽²⁾ 仲町地区のほとんどが、藩政時代に御家中屋敷と呼ばれたところで、住宅構えや暮らしにも侍気質がにじみ出ており、この地区の個人の住宅を含まる一帯が保存地区として選定されている。今回の展示会場である旧伊東家、旧梅田家、旧笹森家、旧岩田家といった武家屋敷が点在する。



岩井康頼 Iwai Yasunori

1952年 青森県生まれ
1976年 愛知県立芸術大学美術学部卒業
1979年 愛知県立芸術大学大学院美術研究科修士課程絵画専攻修了
腐食銅版画により文芸春秋社「文学界」にて目次・カット（3年間担当）、新潮社「新潮」目次・カット（3年間担当）。2004年、チェコの彫刻家「ズビネック・セカール展」を執行委員長として企画・開催（視覚障害者が作品に直接手を触れ、鑑賞することのできる展示会）。2008年、青森県立美術館にて「時の意識と景—尻屋岬景、そして津軽追良瀬」個展を開催。2015年、「アウト・プット展」を青森県立美術館（青森県・特別支援学校及び卒業生の造形作品展を会長として企画）にて開催。個展を中心に活動。専門は絵画（テンペラ画）・銅版画。現在、弘前大学教育学部教授。教育学部附属特別支援学校・校長。



蒔苗正樹 Makanae Masaki

1961年 青森県生まれ
1985年 弘前大学教育学部中学校教員養成課程美術科卒業
様々な素材を用いたインスタレーションによる制作を続けている。劇団夜行館 演劇公演「遠国草紙—丹花抄—」舞台美術制作（1982年）、NHK仙台放送局ラジオドラマ脚本「盃蘭盆会」佳作入賞（東北6県でオンエア 1984年）、個展 breath（ギャラリーNOVITA/青森/2013年）、ヴィジョン・オブ・アオモリvol.12 Polylogue（国際芸術センター青森/青森/2015年）、個展 FLOW 時間が動きはじめる（みんなの集い蔵初駒/黒石/2015年）など、個展やグループ展で作品を発表。現在、青森県立若葉養護学校で教鞭をとる。



塚本悦雄 Tsukamoto Etsuo

1962年 熊本県生まれ
1987年 東京藝術大学美術学部彫刻科卒業
1989年 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程彫刻専攻修了
彫刻を中心に制作活動を行なっている。塚本悦雄—ポートレート—展（旧三和化学教材/弘前/2013年）塚本悦雄展—ケイトウ—（メグミオギタギャラリー /東京/2009年）、第10回アトリエの末裔あるいは未来展（東京藝術大学大学美術館陳列館/東京/2015年）、美術館は動物園展（小杉放菴記念日光美術館/栃木/2011年）、MANIF！2008（芸術の殿堂/韓国/2008年）、アクア・アート・マイアミ07（アクアウィンドウ/アメリカ/2007年）など、個展やグループ展、アートフェアで作品を発表。現在、弘前大学教育学部で教鞭をとる。



坂本憲史 Sakamoto Kenji

1976年 青森県生まれ
1999年 岩手大学教育学部特別教科教員養成課程（美術・工芸）卒業
2016年 弘前大学大学院教育学研究科修士課程教科教育専攻美術教育専攻修了
マスメディアに処理される人間存在とそこに発生するノイズをテーマに絵画や映像を制作。ARTERY TEMPO 動脈拍展（弘前現代美術館/弘前/2002年）、坂本憲史絵画展「病氣 借金 離婚」（五拾壹番館ギャラリー /青森/2003年）、人臭（ヒトシユウ）—猫臭（ネコシユウ）に抗うその強烈な（空間実験室/青森/2003年）、坂本憲史 映像展「ノイズビデオ」（GALLERY DENEGA/弘前/2007年）など、個展やグループ展で作品を発表。現在、青森県立黒石商業高等学校教諭。



参加無料

展示作家4名による アーティストトーク

日時／8月6日（土）午後1時～午後2時

会場／旧伊東家住宅にて

- バス 弘南バス「浜の町・石波線」亀の甲門前下車・徒歩5分/100円バス「ためのぶ号」津軽藩ねぶた村下車・徒歩5分
- タクシー JR弘前駅よりタクシーで約10分
- 車 公開武家屋敷には駐車場がありませんので、津軽藩ねぶた村など付近の駐車場をご利用ください。

【主催】弘前アートプロジェクト実行委員会（弘前市市民参加型まちづくり1%システム対象事業）

【後援】弘前市教育委員会、弘前大学、弘前商工会議所

【協賛】（株）あおり総合管理、弘前市中心市街地活性化協議会、蟻塚学建築設計事務所、NPO harappa

【お問合せ】弘前アートプロジェクト実行委員会 事務局（NPO harappa内）tel:0172-31-0195 e-mail:post@harappa-h.org

マレなること（アート）と マレなる人々（客人） それから 彼の地の マレビト（そこにかつて暮らしていた人々の精霊）と あそべ おとずれて にぎやかに あそべ

旧伊東家×蒔苗正樹
旧梅田家×岩井康頼
旧笹森家×坂本憲史
旧岩田家×塚本悦雄